

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいのの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念に入居者様と職員が1つの家族のように明るく、笑顔の絶えない日々を送れるようなケアに取り組んでいます。その人らしさの中ではご自分の好きな事、やりたい事に取り組める個別レクリエーションを考えて行っています。それぞれの能力に応じたお手伝いや手作り作業を職員と一緒に行う事によって一人一人が役割や存在意義を持てるような家族からの要望も取り入れながら行っています。各担当者は毎月のミーティングの前に家族様・ご本人様に要望をお聞きし、職員同士でも情報を共有して、より良い生活が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のその日の思いを大切にして、穏やかで笑顔のある暮らしの支援に取り組んでいる。居室で新聞を読む人、朝ゆっくり起きる人など利用者のその日の気分やペースに合わせている。誕生日のプレゼントは利用者一人ひとりに聞いて欲しい物を用意している。外部評価の結果を真摯に受け止め工夫して夜間想定避難訓練を実施している。管理者は、職員の提案や要望を大切にして職員間で話し合いながら一つ一つ対応するよう努めている。家族には、写真入りの便りで日々の利用者の様子を知らせている。利用者の担当者は、毎月家族に電話して要望や意見を聞いて会議で話し合っている。家族との信頼関係の構築に務めて利用者のペースに合わせてゆったりと過ごせるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念として、玄関先に提示して、日々職員や家族の目にとまるようにしています。理念に沿った日々が送れるよう業務を行っています。	管理者は利用者の性格や生活歴を知ることによって笑顔で楽しく安全に共同生活を送れるように支援することを伝えている。職員はミーティングや申し送りにおいて理念が実践できるように日々のケアを振り返り話し合っており取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防の為本年度も各種行事を自粛しておりますが、例年度は、地域の方々もお呼びしての流しそうめんやふれあい祭りといった事業所の行事を行っています。	利用者と散歩に出掛けて地域の方と挨拶を交わしている。地域の方から筍や栗、柿、ネギなど季節の野菜をいただいている。地域の方から花をいただき利用者が生けて玄関やリビングに飾っている。職員の送迎で馴染みの美容院を利用する方もいる。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を目途に開催させて頂いておりましたが、本年度もコロナウイルス感染予防の為、行政からの指示のもとに開催しています。家族様にも、状況報告とご要望をお聞きしてサービスに取り入れていきます。	定期的に書面で開催していたが要望があり10月から対面で会議を開催している。事業所の現状や事故、外部評価の結果など報告して話し合っている。事故対策や避難訓練、感染症予防など助言を受けて職員間で話し合っており取り組んでいる。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度もコロナ関係における指示や指導を受けています。又、事故報告や身体拘束廃止に関する委員会報告等も速やかに報告させて頂いています。	市の担当者に事故報告書を提出に行ったとき情報を交換している。市の担当者より事故について問い合わせがあり管理者が対応している。担当者とは話しやすい関係を築き、外部評価の免除申請や困難事例など相談している。介護相談員を受け入れて情報を交換している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様に対して身体拘束はありませんが、3ヶ月に1度は身体拘束検討委員会を開催しています。	委員会や研修会を定期的に開催し拘束しないケアに取り組んでいる。管理者は職員の日頃のケアを観察して気になることはその場で伝えている。職員は会議や申し送りで気になることを提案し職員間で話し合いながら取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修においても虐待の定義や実例を学び職員間でも言葉づかい等注意合っており、虐待の防止を徹底しています。	管理者は虐待に関するテレビや新聞のニュースを話題にして互いに気を付けるように伝えている。日頃のケアや疑問点を話し合いながら虐待防止への意識が共有できるように取り組んでいる。虐待について市からの通知を事業者内に掲示している。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設には該当される入居者様はおられませんが、必要となった時の制度・期間等については把握しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に当たっては事前説明でも十分にお伝えし、契約時には重要事項説明書・契約書等について全て読み上げ説明し、同意を頂いた上で契約させて頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はコロナ感染予防の観点から書面にて、ご意見・ご要望をお聞きしています。又毎月のミーティング前には入居者様、ご家族様に要望をお聞きして、職員一同が共有出来るようにしています。	家族が来所した時や電話で近況を報告し要望を聞いている。毎月の会議で要望を報告し話し合っている。定期的に写真入りの便りを家族に送付している。家族の来所時に「顔を見せて欲しい」と言われて玄関先で面会している。家族から要望があり自宅で家族と一緒に食事している方もいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行い、その場で職員からの意見・提案・要望を聞くようにしています。それ以外にも職員からの要望や相談事があれば随時聞く機会を設けています。	代表者や管理者は毎月の会議に出席して職員の意見を聞いている。管理者は職員の様子や表情から声を掛けている。職員の意見を大切にして話し合いながら解決できるように取り組んでいる。レクリエーションや物品の購入、修繕など職員の意見を反映して取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の就業に適した就業時間に合わせた勤務表を作成、急な変更にも柔軟に対応している。又職員同士の協力体制を作り、働きやすい職場にしている。処遇改善加算における査定も設け、職員のやる気に繋がるようにしている。	代表者は日常的に事業所に顔を出して職員の勤務や取り組みを把握している。管理者は家庭の事情や出勤日数、勤務の内容など職員の要望に配慮して勤務表を作成している。定期的にハラスメント防止に関する情報を提供して職員同志が互いに意識して働きやすい職場になるように取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ミーティング時に社内研修を実施。年間の研修計画も立てている。社外研修についても職員の希望に添うよう、勤務表を考慮して作成している。	管理者は外部研修の案内を職員に知らせて受講の希望を聞いている。研修参加は勤務扱いで費用は事業所が負担している。介護の専門的な研修を事業所においてリモートで受講できるように環境を整えている。新入職員に対して資格の有無に関わらず先輩職員が丁寧に指導している。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は他の事業所との交流で勉強会やネットワーク作りを行い、介護支援専門員は居宅介護支援事業者連絡会に参加し、研修等の機会を設けている。介護職にも勉強会等への出席を勧めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様に出来る事をして頂くことが自立支援に繋がる事なのでそれぞれの能力に応じた仕事を一緒にして頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティング前に各担当者が本人様より暮らし方の意向ややりたいことなどお聞きし、できる限り反映している。	食後や居室など日々の暮らしの中で利用者の思いや職員に何をして欲しいのか聞いている。困難な場合は家族から情報を得て問い掛けて表情やしぐさから把握している。利用者の思いや意向を会議で話し合い少しでも叶えられるように取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングの場で本人・家族の意向や要望を把握して、必要なサービス内容を見直し、介護計画を作成している。	利用者の担当職員がモニタリングを行ったり、家族に電話して近況を伝えて計画への意向を聞いたりしている。会議で家族の意向や担当職員の気付きを報告して職員間で話し合っ計画を作成している。家族に計画について電話で説明している。状態の変化に伴い随時計画を見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	きめ細かい介護記録の作成、朝夕の申し送り、連絡ノートによる情報の共有を行い、その人らしい生活が出来るよう介護計画を見直している。	利用者の日々の様子や状態、つぶやきなどを個別に記録している。利用者の変化など重要なことは介護日誌や申し送りに記録して情報の共有に努めているが、介護計画に基づいて実践した内容や職員のアイデア、気付きなど記録出来ていない。	介護計画に基づく実践状況や職員の気付きやアイデアを記録してケアや介護計画の見直しにつながるような工夫を期待する。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の能力に応じた食事形態や入浴方法、日々の介護の仕方を事業所全体で見極め、その人の状態に添ったサービス提供が出来るよう努めている。	家族の都合で医療機関の受診に同行できない場合は職員が同行し結果を報告している。絵を描くのが好きな方には用紙と色鉛筆を職員が準備している。利用者や家族の希望で馴染みの美容室に職員が送迎している。ラジオ体操やリハビリ体操など簡単な運動を職員と行っている。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではコロナ感染予防の為実施出来ないが近隣の喫茶店や美容室の理容を本人・家族の希望に添うよう実施している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により協力医の往診を受けて見える方もおられますし、入居前からのかかりつけ医に家族同行にて受診されている方もみえます。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。職員は家族に利用者の状態を書面で渡して結果を聞いている。看護職員は結果について医療機関に確認することもある。急病の場合は看護職員に相談して家族に報告し職員が医療機関の受診に同行して結果を家族に報告している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院を訪問し、担当医師等への情報を提供し、現状報告を受け、退院に向けたカンファレンス等に出席している。	利用者の入院時は看護職員が利用者の生活状況や状態を書面で提供している。入院中の状態は家族に確認している。退院前のカンファレンスに職員が参加して食事形態やケアの方法など情報交換しながら事業所での生活にスムーズに移行できるよう取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは施設としては行って居ませんが、本人・家族の希望を聞き、施設としての方針を説明しています。	入居時に家族に事業所の方針を説明して理解を得ている。状態の変化に伴い早い段階から家族に相談している。医師に相談しながら出来るところまで事業所での生活が継続できるように取り組んでいる。継続が困難な場合は家族の意向を確認しながら次への住まいに繋がるように支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請時のマニュアル作成、ヒヤリハット・社内事故報告書の作成と検討を通して事故発生防止を予防し、対応している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。1回目は、令和5年3月16日(木)夜間想定消防訓練を6月19日には、避難確保計画に基づく避難訓練を実施しました。2回目は、10月以降の実施予定です。	併設事業所と合同で水害を想定した訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練は職員が一度帰宅して19時から開始し、職員の参集時間を計測するなど実践に即した訓練を行っている。水や食糧、懐中電灯などを備蓄しているが、地域住民の協力が得られていない。	運営推進会議や関係機関に相談しながら地域の協力体制が構築できるような取り組みを期待する。

だいこんの花肥田瀬

		たいこんの花肥田瀬			
自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けで1日を過ごして頂けるよう、職員間でも言葉使いに注意し合えるようにしている。	管理者は利用者一人ひとりを把握して利用者のペースを大切にし、利用者のやりたいことを支援するように伝えている。職員はやさしく丁寧な言葉使いになるように心掛けている。居室で着替える時はカーテンを閉めたり、トイレの扉を閉めたりプライバシーに配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出て来た本人の思いや希望を実現できるように努め、又、本人が自己決定出来るようにレクリエーション等への参加もお聞きしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課等は決まっているが、当日の入居者様の体調や気分により、参加・不参加の決定はご自身にお願いしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や食べ物を聞き、誕生日のメニューにしたり、行事食に取り入れていきます。食事形態も能力に応じて食べやすい工夫をしています。料理の下ごしらえや後片付けも手伝ってもらって職員と一緒にしています。	頂いた野菜やプランターで育てた野菜を使い利用者の希望を取り入れて調理している。栗の皮むきを利用者に教えてもらい一緒に栗きんとんを作っている。誕生日ケーキの飾り付けや寿司を利用者と一緒に作っている。利用者のペースを大切にして、すぐに食べたくない場合は時間を遅らせている方もいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量を介護記録にて把握し、特に水分補給については1時間おきの提供やレクリエーション・共同作業の後などに提供などして十分にとって頂けるようにしている。好き嫌いのある方には別メニューでの提供もしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、夕食後には義歯洗浄(ポリデント)、管理を行っている。歯ブラシ・コップは毎日消毒し、清潔に留意している。かかりつけ歯科医の往診も受け、助言等ももらっている。	歯科衛生士から指導を受け、利用者一人ひとりの口腔内の状態に合わせたケアを毎食後行っている。夕食後に義歯の洗浄、消毒を行っている。入れ歯がないと眠れない利用者には洗浄後入れ歯を渡している。訪問歯科衛生士が来所した時に利用者個々の口腔内の状態を確認している。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンの把握や適切な誘導(夜間、自分で起きられず失禁してしまう人は声かけてトイレ誘導している)を心がけています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様全員の希望通りの入浴は難しいですが、公平性も重視しつつ、体調に合わせて入浴できるようにしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、特に不眠の訴えがある時に夜勤職員がリビングで一緒に話をしたり、テレビを見て落ち着いてもらっています。日中も本人の状態に合わせて昼寝の必要な方は休息できるようにしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と医療機関、薬剤師が連携しながら情報を交換している。服薬に関しては間違いの無いよう仕分けし、二人で確認するなど服薬間違いの無いように注意している。	調剤薬局の薬剤師が薬を届けて配薬し、変更があれば看護職員に説明して職員に伝えている。薬剤情報をカルテに綴じ込み申し送りに記入している。看護職員は分からないことを薬剤師に確認している。服薬時は名前・日にちを確認し飲み込むまで見守って誤薬や飲み忘れがないよう支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の個性や能力にあったレクリエーションを計画し、楽しみを持ってもらうようにしている。又、個々の能力に応じたお手伝いもお願いしている。	職員は、洗濯物干しや洗濯たたみ、日常に使用する新聞たたみなど利用者が日常生活に役割を持った生活が送れるように支援している。居室で新聞をゆっくり読み気になることをメモしている方もいる。誕生日のプレゼントは利用者の欲しい物を聞いてバスタオルや靴下、ノートをプレゼントしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度もコロナ感染予防の為日常的な外出支援はできていないが通常は本人・家族の希望に添って散歩や喫茶店の利用、誕生日の外出行事等も行っている。感染が縮小すれば安全な形での実施を検討する予定です。	事業所の近くを押し車や車椅子の方も順番に散歩している。桜や朝顔、コスモス、紅葉など季節毎に利用者と一緒にドライブに出掛けたい。利用者が急に散歩やドライブに出掛けたいと要望があった時は職員と一緒に出掛けたい。家族より要望があり協力を得て自宅に帰り食事したり、孫と会ったりしている方もいる。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の入所者様間での金銭トラブルや職員が盗ったなどの疑念が生じないよう家族様にも説明し、了解を頂き施設内では個人的に金銭所持しないようお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族様との電話の受け渡しも行っています。年賀状・手紙等は、必ず入居者様にお渡ししています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かで清潔な環境づくりと居心地の良い空間を作るような季節感あふれる壁面飾りやカレンダーの制作等も入居者様に協力して頂いている。本年のように暑い夏には適切な温度で暮らせるよう冷房の管理や空気の入替えをしっかりと行っている。	リビングにクリスマスツリーやひな飾りなど季節の飾り物や利用者と一緒に作成したカレンダーを飾っている。加湿器を置き消毒を行って感染予防にも配慮している。職員は1日2回換気して快適に過ごせるように取り組んでいる。テレビ前のソファや食卓など利用者が好きな場所で過ごせるように配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では同じ人ばかりと話すことの無いよう時折席替えをしている。又、ソファ席では自由に座ってもらい、誰とも会話が出来るようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や使いやすい衣類ケース等を持ってきてもらい、本人が分かりやすく暮らせるようにしている。入居者様にも参加してもらい季節感のあふれるカレンダーの制作や本人の塗られた塗り絵などを飾っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室周囲には手すりの設置やテーブルや椅子の配置、ソファの配置など安全第一に考え、環境作りをしている。見守りが必要な入居者様には見守りや介助をしている。		